

2023 年 6 月 25 日

### 注目が集まるナヒチバン

ナヒチバンはアゼルバイジャンの飛び地(ソ連邦成立時にアルメニア領土により本国と分断)ですが、アゼルバイジャン古来の民族・文化的資産が豊かな土地であり、また故ヘイダル・アリエフ大統領(現大統領の父)の出身地という関係上政治的にも重要な地域で、国内唯一の「自治共和国」となっています。このナヒチバンが最近では中央政府により経済開発の重点地域とされ(6月、アリエフ大統領は「2023-2027年ナヒチバン社会経済開発に関する国家プログラム」を承認)、各方面から注目を集めつつあります。

この背景として、対アルメニア和平プロセスの中で、ザングズル回廊(アゼルバイジャン本国とナヒチバンを繋ぐアルメニア領土部分)の交通開設に関する交渉が進展していることが挙げられます。近い将来にまず鉄道の開通が合意され、道路建設が続くと見られています。(なお、昨年末にナヒチバンで長年実権を握っていたタリボフ議長が更迭され、中央政府直轄人事が断行されたことも、最近のナヒチバン経済開発推進の一因となっています。)

ザングズル回廊の開設により、ナヒチバンはアゼルバイジャン、アルメニア、トルコ、イランの結節点、交通の要衝となり(中央回廊のコーカサス南ルートが通過)、広域物流・交易上の便益は極めて大きくなります。また、送電ルートとしても有望で、「国家プログラム」にはナヒチバンからトルコへの直流高圧送電線の整備計画が記載されています(エネルギー大臣はナヒチバンでの1500MWの再エネ発電、1000MW以上のトルコ・欧州への輸出を目標とする旨発言。ナヒチバンの日照量は国内最大)。政府は、さらにその先に、本国での大規模な再エネ電力をザングズル回廊・ナヒチバン経由でトルコ・欧州向けに輸出する計画を視野に入れています。

「国家プログラム」にはこのほか、産業パーク、農業パークの建設も記され、上述の立地上のメリットに着目した投資誘致、貿易振興を図る意向です。ナヒチバン(オールドゥバド県)は古くからフルーツ、ハーブ、ナッツ類の生産が盛んであり、ドライフルーツや、クルミやタイムのジャムなどが名産です。観光資源も豊富であり(イスラムの名跡、アララト山の眺望、世界的に有名な岩塩洞窟での気管支喘息治療施設、スキーリゾート等)、注目が集まるナヒチバンを訪問されることをお勧めします(バクーから飛行機で1時間、片道70マナト(5800円))。

(以上)

別添:

